麗紀事。大元諸塑記、大元倉庫記、大元氈罽工物記。大元官制雜記唐折衝府考補(羅振玉)日知錄補正(李過孫)永觀堂海內外雜文(王國維)曲律(明王驥德)なり。〔以上那波〕

◉世界大戰史　前篇　　箕作元八編

五箇年の久しきに亙りし世界大戰中に於て動もすれば日々目前の戰局將來の豫測に注意を集中し、飜つて過去戰役全局の經過を統合的に觀察することを忘りし人々も、平和克復の今日に於ては この曠古未曾有の大戰を終始審さに全体として史的回想を試んとする希望の最も切なるものあるや必せり。今やこの彼我大活動の決算期ともいふべき講和會議の開かゝ、時機に際して本書の出でたるは確に一般讀書界の感謝の意を表する所なるべし。本書は箕作博士の下に各方面專攻の士が分擔して努力を傾注したる成果にして、全篇を二部に分ち、第一部には大戰亂の由來戰前の外交及交戰各國の內政、經濟財政を說き、第二部には陸海両方面の戰史や各時期並に各方面に分つて詳細に叙述し、加ふるに多數の寫眞版地圖や挿入し戰役一般の概況、各地戰鬪の經過を知得するに便ならしめたり。本文前後二部を合して千二百餘頁に達し、叙說平明を旨とし且興趣ある筆致を以てせり。もとより普く各方面に亙り最新の事件迄を包容して說述されしものなれば、資料の蒐集事の調査萬全を期し難く間々闕漏なきにあらざんも一般讀者に向つて惠澤を與ふること多大なるべし(富山房發行、價六、〇〇)

◉A.J. Carlyle: A History of Mediaeval Political Theory in the West. Vol. III. 1615

中世の思想學說をこの時期の歷史々實を背景として論述せる稀有の好著として有名なる本書の第三卷は十世紀より十三世紀に至る羅馬法學者及教會法學者の政治學說を叙說したる既出第二卷の後を承けて、第一部政治論に及ぼせる封建制度の影響第二部十一、十二両世紀に於ける政治學說を論述したり。吾人の特に興味を覺ゆしは、封建制度に就いて其劃一的成形を認めずして、不斷の發展變移を主張したる見解(Part I, Chapter I.)並に中世に於ける世界的帝國の思想が從來過重視せられしを斥け、所謂神聖羅馬帝國の觀念はこの時期に於て決して左程顯著なる主義思想として人心を支配せしものにあらざる旨(Part II, Chapter VII)を論ぜし點にあり〔以上植村〕

◉帝都と近郊　一册　　小田內通敏著

大倉發身氏出資の下に完成る聚落地理學(Siedelungskunae)に關するもの、緒說には「江戸及東京の都市の發達」「東京市の郊外地帶」として帝都の歷史的變遷を畧說し、特說、卽本論は「東京市の西郊」と題して、專ら西郊のみの「自然的環境」(境域、地形、水系、地質、土壤、氣候)「住民と居住」(人口、職業、居住